



発行日 平成30年11月30日



No.8

集団生活のなかでの大きな学び

～人間関係を築くことの大切さや心地よさ～

校長 宮 居 伝

師走を迎え、スポーツの秋、芸術の秋、読書の秋…と、学びの多かった二学期もまとめの時期となりました。

子どもたちの活躍や頑張りが多く見られた、たいへん有意義な学期となり、うれしく思っております。

ところで、「滋賀教育（一般社団法人滋賀県教育会発行・第723号）」という小新聞に、次のような投稿が書かれてありました。



総合的な学習発表会

ト ラ ブ ル

教師の力を確かめるように問題を持ち込んでくる。
これは、一年生担任の話。

ドッジボールで仲良く遊んでいたのに急に喧嘩になった。「出た」「出ていない」の繰り返し。だんだん言葉が粗くなる。放っておけないと判断し、担任が仲介に入る。

「ボールは、外に出ているから僕のもの。」

「ボールは、線の上に落ちたから、中の人のもので外の人のものではない。」

ライン上に落ちたボールが口論の原因。

「体育の時間に約束を決めました。線の上はボールは外でしたか。中ででしたか。」

担任の一言で、出来事は一件落着。

「ぼくは、約束のことを忘れていました。ごめんなさい。」

とお詫びの言葉が生まれる。

担任が、話を聞く時間を設けるだけで、トラブルの

半分以上は解決できる。

高学年でも同じような事例がある。にらんだとかにらまないという問題。何もしていないのに、背中を叩いたというような問題。

このような時、事象だけを指導しても解決しない。トラブルの多くは、互いに何となく嫌いという気持ちがある。人間関係が希薄だと、許せることが許せないのである。

そんな時、「自分の中に、嫌いと思っている人とは、小さく見えることでも、許せない気持ちがある。そういう自分に気づくことが大切」という指導を大切にしている。加えて、嫌いな人を好きになる努力が必要と諭す。

トラブルを機会に、心を育てようという気持ちで向かい合う。すると、見過ごしている子どもの心が見えてくる。

その意味においても、話を聞く時間の確保は貴重である。

日々の学校生活のなかでは、子どもたちの間で、いろいろなトラブルが生まれます。遊びのなかで、また「何故そのような会話を?」「それが何気ないひとこと?」という言葉が出たり、思いをうまく伝えられず手足が出てしまったりしてしまうことも…。

子どもたちの表す姿は、一人ひとり異なりますが、人間関係を築くことの大切さや心地よさ、その術を集団生活の中で学んでほしい、そしてまた、そのための取組や私たち大人の関わり方も大切との思いを持っています。

子どもたちは、学校生活のなかで、教科の学習はもちろんですが、集団の中だからこそ学べることを、日々、体感・体験しています。

そして、このようななかで得た学びが、今後の社会生活のなかでのヒントになってくるにちがいありません。このような思いや願いを持ち、これからは精一杯、指導にあたって参りたいと思っております。

最後になりましたが、寒さがじわじわと迫って来るこの時期、子どもたちの体調管理のお願いとともに、みなさま方におかれましても、くれぐれも健康には、ご注意ください。



校内マラソン大会